

医師部門（地域医療への貢献）

受賞者： まつしま 松島 しょうすい 松翠（88歳）

長野県厚生連佐久総合病院 名誉院長



松島松翠氏は、東京大学医学部を卒業後、昭和29年佐久病院に着任し、農村医学・農村保健・健康な地域づくりの推進役として多くの実績をあげた。

八千穂村（現佐久穂町）の全村健康管理事業を推進し、高齢者に対する健康診断の手本となった。さらに地域住民の健診を徹底し、健康教育・衛生指導員組織の育成をするなど、病気の早期発見・医療費の低下につながる健康管理の意義を訴え続けた。今も地域住民の健康管理運動に参加している。

長野県下で集団健康スクリーニングのしくみを確立し、行政・農協などとの連携による住民健診と事後指導など、全県民の健康づくりに邁進した。農業協同組合に「健康づくり運動」の役割を位置づけ、農村における疾患の究明・対策などに職員及び関係者を参画させ育成した。40余年にわたる集団健診の普及活動は、健康長寿で医療費の低い長野県の実現に一端を担っている。

また、佐久総合病院の院長時代には院内に「地域ケア科」を確立し、先進的に地域での高齢者医療とケアの充実に貢献した。

地域ぐるみの健康管理運動とそれにつながる文化活動を進め、地域の問題を住民が参加しながら解決することの意義を積極的に指導してきた。医療と文化の融合による地域健康づくりとその広報活動に努めた。地域・職場の文化活動として、病院歌の作曲も手がけている。

日本農村医学会の副理事長、国際農村医学会事務総長を歴任。また日本農村医学会雑誌の編集委員として、農村医学研究を深め、現在は同学会名誉会員に就任し、日本・アジア・国際農村医学会の発展に大きく貢献している。

推薦者： 藤原 忠彦 川上村役場村長、全国町村会長、長野県町村会長
早川 富博 JA 愛知厚生連足助病院病院長
行天 良雄 国際医療福祉大学客員教授